

# 「生き方によって選びを示すⅢ 道を備える役割 ～善を行う～」

I ペテロ3:1-8

## ■ はじめに

「のろまなローラー」という絵本が紹介されました。ローラー君には道を平らにするという役割がありました。そして、だれから何を言われても自分の役割を果たしました。はじめはローラー君のことを「のろま」と馬鹿にしていたものたちも、最後にはその働きを理解してお礼を言うようになりました。私たちひとりひとりにも神様から与えられた「役割」があります。自分の役割は何でしょうか？ どうしたら自分の役割を知る事ができるでしょうか？ それは、イエス様のどの部分が好きなのか、どこに引かれるのかによって自分の役割を知る事ができます。あなたはイエス様のどの部分に共感しますか？

自分の人生の中で苦難に遭ったとき、私たちは信仰によって義と認められたのだから、どんなことがあってもその道にそれずに進んでいこうとします。その時に妨げになるのは高ぶりです。だから自分が罪人の頭である事を理解しなければなりません。自分が罪人である事がわかれば、人との比較はなくなります。そして人との比較が無くなると次は誰に習うかが大切です。もちろん私達はイエスキリストに習う者となるのです。

## ■ 私たちは自由人としてどうふるまうのか？

あなたは職場で上司に従っているでしょうか？ 野の花はどんな環境でも置かれた場所で花を咲かせようとします。それが自らの役割だからです。これが従うと言うことだと聖書は言っています。だから役割を果たそうと努めている人を敬うように聖書は言っています。敬う気持ちがあればそれぞれがお互いを認め尊重していきます。だからお互いに愛する事ができます。愛すると尊ぶことが出来ます。すると感謝と喜びが生まれすべてが良い連鎖に変わっていきます。だからまず、従う事からはじめなければなりません。

## ■ ふるまう

「同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。」第一ペテロ3章1節

「ふるまう」という言葉には“好意を持って、飲食物を提供する。ご馳走をする。もてなす”などの意味があり、愛を与える姿があらわされています。第一ペテロ2章12節には「異邦人の中であって、りっぱにふるまいなさい」とあります。私たちはどのようにふるまったら良いのでしょうか。人は与えられてはじめて正しい行いが出来るようになります。人を言葉で変えようとしてはいけません。なぜ教会で聖餐式をするのでしょうか。聖餐式はキリストがその体をふるまう行為です。清い生き方で与えると言うことだと教えています。だから妻に対して、「むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人からを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。」第一ペテロ3章4節と伝えています。外側を着飾るよりも、まず自分の内側が大切である事が伝えられています。それは柔和で穏やかな霊であると書いてあります。また、サラを見習うように勧められています。「たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことも恐れなくて善を行えば、サラの子となるのです。」第一ペテロ3章6節

アブラハムはエジプトに言ったときに、エジプトの王に対してサラは自分の妹だとうそをつきました。それはサラのために自分の命が危険にさらされると恐れたからでした。そのようなアブラハムに対してもサラは従い続けたのでした。だから信仰の母となり

## ■ わきまえる (第一ペテロ3章7節)

「わきまえる」とは知識に基づく理解を意味します。この知識とは神が人を男と女に分けて創造された理由を理解するということ

です。そして良く学ばなければなりません。当時は女性の権利はない時代だったのですが、その中でペテロは女性を理解しなさいと言っています。男性は女性をよく理解しなければいけません。アダムのあばら骨からエバがつけられました。アダムの骨からつくられた妻は夫の感情を良くわかっています。その妻に対して話をよく聞いて理解しなければ、妻との関係は良くなりません。また、男性が責任を果たさないと女性は男性に従えなくなります。だから妻のことを夫はよく理解することが必要です。「ともに生活する」とは良く聴くという事です。それは「あなたの祈りが妨げられないため」です。

## ■ 「最後に申します」(第一ペテロ3章8～13節)

聖書の中の自分に都合の良いところだけをやっても意味がありません。聖書全体で語られている事のすべてを少しずつ行うことが必要です。まず心をつにします。役割の違う男性と女性が同情しあうように勧められています。それは理解することです。そして女性は責任を持っている男性を信じてください。そしてあわれみ深く謙遜でありなさいと言われていきます。悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、相手に祝福を与えるようになりましょう。だから舌を押さえて悪を言わないようにしましょう。女性は平和を求める海のような存在です。そして男性は揺れ動かない山のような存在です。お互いがそれぞれの役割をしっかりと担うなら、心をつにしていけるのです。もし、今何かが上手く行っていないなら、これらの何かが欠けています。「善に熱心」ではないという事です。

## ■ まとめ

道を備える役割をよく理解してください。あなたは道を備えています。だから自分の役割が何かを知ってください。そのために従ってください。してはならないと言われることをしてはいけません。「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」。最後まで諦めずにやり通さなくてはなりません。相手を裁くのではなくイエス・キリストの愛を思い起こしましょう。すべては「愛」から始まらなければいけません。あなたの役割は何でしょうか？ あなたがなぜ生きているのでしょうか？ 何のためにそこにいるのでしょうか？ もう一度考えてみる必要があります。自分の目的がわからないなら、イエス様のどこが好きかを思い起こしましょう。

心をつにすること、同情(理解)しあうこと、愛を示しているか、あわれみ深いのか、失敗した人を赦しているか、責めずに受け止めて一緒に改善しているか、謙遜であるか、自分が何か出来るもののように言っていないか、悪を持って悪に報いていないか、侮辱を持って侮辱に報いていないか、かえって祝福を与えているか、舌を押さえて話すことを遅くしているか、唇を閉ざして偽りの言葉を語らないでいるか、善を行っているか、平和を求めているか、何のために相手に話しかけているのか、愛を持って伝えなければいけません。そして道を備えなければいけません。イエス様が歩くべき道をあなたは継承しました。そして彼の歴史を受け継ぎました。その道をローラーのように整えてください。あなたを通り過ぎていった侮辱した人たちも、やがてあなたを理解するようになります。

キリストの十字架を思い出しましょう。だれが彼をむち打ち、釘を打ち、裏切りましたか。しかし彼はあなたを赦しあなたを愛すると言われ、今も共にいてくださるのです。だから私たちはキリストの愛を抱いて道を備えていきましょう。

(要約者:日名洋)

(2021年5月16日)